

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成 29 年 12 月 21 日 (2017.12.21)

【公開番号】特開 2016-125878 (P2016-125878A)

【公開日】平成 28 年 7 月 11 日 (2016.7.11)

【年通号数】公開・登録公報 2016-041

【出願番号】特願 2014-265907 (P2014-265907)

【国際特許分類】

G 0 1 N 1/00 (2006.01)

G 0 1 N 30/04 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 N 1/00 1 0 1 G

G 0 1 N 30/04 P

G 0 1 N 30/04 A

G 0 1 N 1/00 1 0 2 C

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 11 月 7 日 (2017.11.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 8 】

実施形態では、前記内標 1 3 は水系溶液中の目的対象成分に含まれていない成分であり、物性が似ており、定量目的成分に近い位置で溶出し、高純度な成分である必要があり、実施形態ではフルオロベンゼンと 1, 4-ジオキサン-d 8、トルエン-d 8 と p-ブロモフルオロベンゼンの 4 成分を使用している。

このうち、フルオロベンゼン、トルエン-d 8、p-ブロモフルオロベンゼンは、検出器の感度の補正を図り、1, 4-ジオキサン-d 8 は 1, 4-ジオキサンの補正を図るようにしている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 6 】

前記水系溶液 1 6 は V O C 成分を含む水等を使用し、内標 1 3 としては水系溶液中の目的対象成分に含まれていない成分であり、物性が似ており、分析対象成分に近い位置で溶出し、高純度な成分である必要があり、実施形態ではフルオロベンゼン、1, 4-ジオキサン-d 8、トルエン-d 8、p-ブロモフルオロベンゼン等を使用する。

このうち、フルオロベンゼン、トルエン-d 8、p-ブロモフルオロベンゼンは、検出器の感度の補正を図り、1, 4-ジオキサン-d 8 は 1, 4-ジオキサンの補正を図るようにする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 7 】

前記フルオロベンゼン、p-ブロモフルオロベンゼン、トルエン-d 8 は回収率が高い成分で、パージを行なうことによって略全量が揮発しトラップ管 2 5 へ吸着される一方、1, 4-ジオキサン-d 8 は親水性が高く回収率が低い成分であるため、パージを行なってもトラップ管 2 5 へ吸着される割合が低い。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 5 1

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 5 1 】

この後、ニードル 1 4 を容器 1 7 から引き抜いて排出容器 1 8 内へ移動し、第 1, 2, 7 切換弁 2 0, 2 1, 4 1 と内標導入弁 8 を図 2 の実線のように切換え、内標導入弁 8 と内標導管 9 を連通する。

そして、不活性ガスを加圧ガス導管 1 2 へ送り込み、該ガスを内標収納容器 1 1 へ導入して内標 1 3 を内標導管 9 へ押し出し、これを内標導入弁 8 へ導いて溝孔 8 a に導入し、導入後の余剰分を排出容器 1 0 へ排出する。この状況は図 2 のようである。